

浜田水産高校「同窓会」



〒697-0051
浜田市瀬戸ヶ島町25-3
Tel 0855-22-3098
Fax 0855-23-4811
E-mail
hamasui-o1@shimanet.ed.jp
<http://www.shimanet.jp/hamasui/>

会長挨拶

浜水会 会長 山崎 晃

会員の皆様におかれましては、全国各地で日々活躍のこととお喜び申し上げます。

平素は、母校及び同窓会「浜水会」の発展のため物心両面のご高配をいただき厚く御礼を申し上げます。

私は、平成20年9月に第4代目の会長に就任しました。就任に当たり4つの目標を立てました。そのうち①会員名簿の発行②広島支部の再度の設立③翠香の会報の発行を実現してきました。4つ目の浜水会単独総会の開催につきましては、今後の検討課題としております。

平成24年度の事業としては、校歌と応援歌のCD作成に取り組みました。校歌については、カセットテープに吹き込んだ校歌はありません。水高讃歌・応援歌の黒潮うずまき・瀬戸の入江は、楽譜もなくテープもありませんので、事務局と相談してCDを作製するにしました。2月末には納入予定ですので、卒業生の皆様には、購入していただきますようよろしくお願い致します。

母校を取り巻く状況は、少子高齢化の影響により、高校入試では生徒の定員確保が最大の課題となっており、募集定員の確保も毎年厳しくなっています。そのような中で、生徒達は、水産業の担い手育成事業で取り組んだ事業を継続しております。ノドグロふりかけ・カレイバーガー・魚醤・フリーズドライ塩辛・海鮮丼・どんちっちアジ・ブリ缶詰・お魚ドーナツ等の商品開発しています。そして、平成24年は、全国で2番目の水揚げ量のブリに注目し、新商品開発に努め、ブリチキン・ブリソーセージ・ブリウインナーの3つ商品開発をし、特許庁に商標登録を行いました。

昨年、浜田市の新事業として、11月11日に原井小学校にて第1回「地食甲子園INはまだ」が開催され、県外2高校・県内6高校が参加して開催されました。浜水高は「ブリどっく」で参加し、石川県立野々市明倫高校に次いで準グランプリに輝きました。

我々卒業生にとっての朗報は、大型練習船神海丸が石巻市の造船所で建造中であるということです。総トン数は695トンで生徒定員は64名・乗組員24名・指導教官3名で建造費は、15億円の最新鋭の船が建造中です。4月には浜田港に勇姿をみせてくれるので楽しみにしております。

今春の卒業生は55名であり、内進学が12名・就職が43名、県外就職は6名。県内就職は37名であり、浜田市内就職が34名で地元への就職率は86%と聞いております。漁業後継者は、吉勝丸漁業、裕丸漁業、真和漁業、大田小型底引きに本科6名、専攻科1名が進み、島根県の船舶職員に2名、山陰沖の漁業取締船に1名など、海上関係に就職することは嬉しい限りです。

終わりに、浜田水産高校の益々の発展と会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしますと共に浜水会の発展のため一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

面舵いっぱい、ようそろろ

校長 秋好 和則

会員の皆さまには、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜り感謝し厚くお礼を申し上げます。本校で学んだ三年間の絆をつないでいく同窓会。このたびその会報である「翠香」第14号の発刊となりました。

3月1日の卒業・修了式では本科生55名、専攻科生6名を社会へと送り出しました。本校はこの数年来「地域と共に活力ある浜田水産高校」を目指し、地域を支える人材の育成を目標に「地域産業の担い手育成事業」を一つの柱とするキャリア教育に取り組んできました。その結果、島根県教育委員会より「特色ある教育活動表彰」を受賞するなど高い評価をいただきました。この「担い手育成事業」も年を追って成果が表れ、今年度は就職を希望する卒業生のうち約90パーセント地元で就職し地域を支える人材となりました。卒業生が地域を支える自覚を持ち続けそれぞれの立場で努力し活躍することで、本校の建学の精神が輝きを増します。今後は同窓会の一員として、先輩会員の皆さまのご指導をいただきますようお願い申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが今年度末をもちまして定年退職を迎えます。一生一色、水産教育一筋であった教員生活も終わります。思えば36年前、島根県で機関科の教員を捜していると学科長から勧められました。6ヶ月の社船実習（当時の東京タンカー）を終え下船したばかりの私は、船舶職員としての夢も捨てがたく暫く意思表示を保留しました。しかし、専攻科卒業の昭和51年は第一次オイルショックの影響もあり水産・海運会社が求人を控えた時代でもあり、勧めに応じ隠岐水産高校で教員生活が始まりました。8年間の勤務を経て昭和59年度から本校で通算26年間勤務しました。これまでの勤務を振り返れば昭和49年から第二次オイルショックや昭和57年の世界の200海里体制を契機に、水産界は遠洋漁業から沖合・沿岸へと生産海域を移す大改革の時代に対応することを目指しました。水産高校は建学の精神に立ち返り、地域に根ざした学校づくりを目指していきます。

本校も時代の変化に対応し、平成元年に県下最大の水産加工団地を生かして、水産業を生産（一次産業）・加工（二次産業）・流通（三次産業）で完結する産業と位置づけ三学科とする大幅な学科改編を行いました。そして、専攻科（漁業・機関科）は存続させることとしました。その

後、生徒の減少期を迎え、二学科としました。昨年度末には体育館のリニューアルが終わり、今年度は海洋技術科実習棟外壁工事及び長年の懸案事項であった実習棟横の崖地落石防護壁が設置されました。来年度以降は艇庫のリニューアル工事、食品流通科実習棟の改装工事そして本館教室棟のリニューアル工事が計画され、引き続き学校施設・設備の充実が図られる目処もつきました。少子高齢化に対応する新たな水産教育の創造など、多くの課題を抱えやり終えなかったことも多いですが、後人に託すほかはありません。

おわりに、新しい練習船「神海丸」（695トン）は復興一番船として宮城県石巻市の造船所で建造されました。平成25年度より、一回り大きくなって就航することが最後の思い出となりました。人が人を育てると言う事を実感として味わった教員生活でした。お世話になった皆さま方に感謝し、会員の皆さまのご多幸を祈念いたします。

第18回 関西浜水会の報告



平成24年10月28日（日）、ニュー大阪ホテルを会場にして第18回関西浜水会が開催された。

浜田水産高校は、水高祭の日であり、秋好校長・学校関係者の出席が難しく、浜水会会長 山崎 晃、同副会長 中村 洋一の2名が浜水会を代表して出席した。関西浜水会名誉会員 樋口 善吾（現在江津市在住8P）、浜水会広島支部から田中 輝隆（副支部長17P）が来賓として出席。当日の出席者は30名でした。（総会資料P4）

総会は、11：00～ （1）会長挨拶（関西浜水会）、（2）来賓挨拶（浜水会会長）、（3）議事進行（関西浜水会 井上事務局長）①会務報告②平成23年度会計報告③平成23年度監査報告④その他、（4）写真撮影・・・（総会資料P6）

※（1）会長挨拶（関西浜水会 三谷繁尚会長）

・関西浜水会の会長として頑張ってきたが、身体の不調（難聴）のため支障があるので、副会長 田野 博（10P）に会長代行をお願いしたいとの話があり・・・総会で承認された。

※（2）来賓挨拶（山崎 晃浜水会会長）の概要

・関西浜水会が水産高校の水高祭と重なったため秋好校長ほか学校関係者が出席できなかったことについて

・学校の教育活動は、評価されるものが多く、色々な表彰を受けていることについて

・大型実習船の代船建造の現在の進行状況について

・生徒減少下の現状下での浜田水高の将来の見通しについて

・同窓会の事業（校歌・応援歌のCD作製と販売計画について）

懇親会は、12：05～ 中森 稔（16F）の司会進行で開会。

（1）校歌斉唱・水高賛歌（2）乾杯発声 樋口善吾名誉会員（3）来賓紹介・挨拶・・・中村洋一 浜水会副会長、田中輝隆 浜水会広島支部副会長（4）会食・懇談（5）ミニコンサート＝ハープ・チェロ・フルート・・・中締め・・・二次会 ～16：00修了。

※（5）ミニコンサート＝ハープ・チェロ・フルートの演奏

司会進行 中森 稔氏の姉上と友人の方のプールの演奏でした。校歌・水高賛歌の伴奏や滝廉太郎の荒城の月など・・・名演奏でした。懇親会が盛り上がり、静かに拝聴できなかったことは、残念でした・・・演奏者のお二人へ・・・お許しくださいませ・・・

※懇親会の状況につて

関西浜水会は、今回で18回目の開催・・・継続は力と言うことを実感しました。顧問の舩上英人氏（2P）や名誉会員樋口善吾氏（8P）などの先輩諸兄並々ならぬご尽力と三谷繁尚会長ほか関西浜水会役員の皆さんの協力一致の成果が今日の関西浜水会隆盛をもたらしていることを実感しました・・・学校・浜水会事務局からは感謝の気持ちで一杯です。女性の方々の参加も多く見られ、大阪の華やかで明るく自由な雰囲気を感じることができ、嬉しく思いました。

皆さんから、浜水頑張れ・・・との熱いお声を掛けて頂いたことも、この報告に含めておきます。（文責：浜水会副会長 中村洋一）

第18回 総会・懇親会 出席者

来賓者：山崎 晃 浜水会本部長・浜田市議員（12F）
中村 洋一 浜水会本部副会長・元浜水高漁業科職員（15F）

樋口 善吾 関西浜水会 名誉会員（8P）

田中 輝隆 浜水会広島支部 副支部長（17P）

会 員：2F 田中 強 2P 舩上 英人 6P 三谷 繁尚

7P 湯浅 勲 8P 濱田 耕一・井上 美智代

10E 島内 清美・河野 繁喜・辻岡 茂樹
10P 田野 博・井上 稔義 11P 森藤 須賀子
12F 寺戸 正憲 12P 坂井 和夫
13P 大畑 賢二・林 三枝子・藤沢 敏子
16F 中森 稔 16P 村上 義幸 17P 白川 克範
19P 田中 裕章・山田 恵総 21F 黄波戸 進
28P 小玉 喜子 32F 長谷川 清次・竹下 信子・久山 薫

平成24年度 浜水会広島支部総会



浜水会広島支部総会・懇親会参加者

来賓者：秋好 和則 濱田水産高校第18代校長
12F 山崎 晃 浜水会本部会長・浜田市議会議員
15F 中村 洋一 浜水会本部副会長
22E 佐々木幸治 浜水会本部事務局・浜水教諭
10P 田野 博 関西浜水会副会長

県外参加：3F栗山 利男 福岡県在住 8P樋口 善吾 島根県在住
15P橋岡 茂徳 福岡県在住 17P山本 周二 島根県在住

会員：4F小林 義久 5F中村 政一 7F永井 敏和・佐々木 重博
10P中川 平介・佐々木 博・宮脇 勝 11P井上 範昭
15P島田 秀男・西尾 朝雄 16P下高 フミ子
17P田中 輝隆・佐々木 澄夫・竹岡 謙治・小川 耕次
18P舩田 隆・岡本 廣志 19P宮本 悦子 24P水野 重敏
25F野崎 俊明 26F前原 正和 29F松岡 憲明
31P増野 明美 31E野村 康弘 40E吉川 実

平成24年7月8日（日）に広島支部総会懇親会がホテルセンチュリー21広島で開催されました。九州や島根からの参加者もあり盛大に開催されました。詳細は紙面の関係で次号の翠香に掲載することでご容赦ください。

尚、やむなく欠席された方の返書が58通もあり、「元気でやっている」「今年は所用で参加できないが来年は参加したい」など返信があったとお聞きしました。

同窓会（浜水会）あれこれのお知らせ

浜水会副会長 中村洋一

同窓会名簿を見ると1期生の卒業は、昭和26年3月なので今年81歳の年齢になられる。以来、平成25年3月の卒業生は63期生となります。

浜田水産高校は、昭和23年4月1日創立であり、平成25年4月1日を以て65年の学校史を残す状況になりました。

平成21年に、5代目の同窓会（浜水会）会長F12期生 山崎 晃さんの誘いによって同窓会副会長として浜水会のお世話をする立場に加わりました。もう一人の副会長は、F7期の大崎 寛さんで、奇しくも会長・副会長はF科卒業生という状況です。

ここ数年、県外の支部組織との連携強化ということを1つの努力目標として頑張ってきています。

広島支部や関西浜水会との連携強化がなされており、学校にある事務局に、交流の記録が残されています。浜水会事務局は、浜水進路指導部に場所を構え卒業生からの連絡に応える事ができるようになっています。電話連絡は、0855-22-7489で通じます。

浜水会に関する問い合わせや同窓会活動についてのご意見・提案・要望などを遠慮なくお寄せ頂きたいと思っています。

学校の建物や先生などは、時の流れとともに大きく変化しており、学校創立期のものはほとんど目にする事は、現在では叶いませんが浜田水産高校現在もりっぱな姿を維持しており、卒業生にとって大きな喜びであり、感動を覚えるものです。

職場を定年退職された60歳以上の卒業生の皆さんは、孫のことなどと共に、地域で町内会・自治会のお世話や何かのボランティア活動などで頑張っておられることと拝察します。

自分の自由な時間ができ、また、生きるエネルギーがある間に同窓会活動へ是非ご参加ください。

人生の楽しみごとの1つにそれを加えて見られるようお勧めします。私は自宅や車の中で、平成21年12月発行の同窓会名簿の中身を眺めては、いろいろなことを回想して楽しんでいます。

みなさんも同窓会名簿から楽しみを見つけ出してみませんか・・・。

手元に同窓会名簿がない方は、浜水会事務局に連絡を取って見られると良いと思います。

今年は、県内の支部活性化に取り組むことができれば・・・と考えています。県内在住の卒業生のみなさん、みなさんのお力をお貸しください。葉書1枚の近況報告でも同窓会活動活性化の貴重な情報になります。

まず、出来ることから活動参加をしてみてください。ご協力よろしくお願い致します。

最後に嬉しいニュースを1つ書いておきます。4代目大型実習船（＝神海丸）が今春竣工するそうです。

専攻科を出られた卒業生のみなさんには感慨一入のことと拝察します。専攻科入学生の新乗船の日が待ち遠しく思えます。何時の日か、新造神海丸を浜田の港で目にしたいものです。

浜水会会員のみなさまの益々のご健勝をお祈りしながら浜水会の近況をお知らせします。

感謝

下谷 輝幸（14P）

昭和39年水産製造科（14P）を卒業して早いもので、半世紀近くなります。思い起こせば中学3年の時に親友7・8人が、私の家で勉強という事で、たびたび顔を合わせる事が有、そんな時に受験か就職かで話が弾み、おまえ浜田高校普通科、君は浜田高校商業科、あるいは江津工業、俺は就職するぞ!と発し自分たちで将来の事を決めて頑張ってお勉強した事を思い出します。その結果、親友たち皆が目的通りに進学し、そして就職も思い通りになりました。

私も思い通りに水産高校に入ることが出来、あの制服を着ることで夢がかなった感じでおふくろも喜んでくれている姿が今でも脳裏に焼き付いています。入学してから、何かしたいと考え、中学時代に、共に卓球で鍛えた友達の誘いで卓球部に入り、日々の部活動を頑張ってきた私の人生が変わった様に今も思い込んでいます。それはすばらしい先生と先輩に会う事が出来たことです。もちろん通常の水産関係の勉強は教わりましたが、それ以外に実習という名目で冷凍機械の運転あるいは分解そして当時では珍しい軽三輪自動車の運転や構造の勉強までも教えて頂いた事が現在も励みになっていると思います。お蔭で昭和37年10月頃と思いますが第二種冷凍機械主任者国家試験で筆記試験に合格し実務経験をする事とし、さらに昭和38年4月に軽自動車の免許を取得させていただきました。

当時3年生になると県外実習があり卒業後に就職する研修生として勉強に行く事が普通でした先生から言われるまま不安を抱きながら兵庫県西宮市の明治乳業（株）西宮工場へ行き工務係という職場に研修に入りました。現場に行くと、牛乳とアイスクリームを製造する会社なので冷凍・冷蔵に関する冷凍機械の運転はもとよりボイラの保守管理運転という仕事为主でした。この課に吾浜水の先輩がおられこの方から短い研修の中でいろいろ教えて頂き、此の事がバネになり明乳で頑張ってみようと思面接試験を受けました。昭和39年3月に卒業して会社に入ってから暫くは水産高校の制服で出社していました。偶然もあるものです近くに進学校で有名な灘高校があり、この高校の制服と全く同じ制服でしたので間違えられることがあって笑い話となっています。

研修中にお世話になった先輩は、私が会社に入ると結構厳しくなり徹底的に教育されましたが、時には私を自宅に呼んでくれて家族的な気分も味わせて頂き感謝しています。

そのことから他の職場の先輩や後輩からも指導を受けてボイラ（1級）、危険物とかも資格を取らせていただきました。しかも昭和45年には第一種冷凍機械保安責任者の資格も達成し、皆さんからよく頑張ったねという言葉は今でも忘れません。

しかしこの年の7月に一身上の都合で同社を退社。浜田へ帰ることに決めました。帰省してからも再び試験が待っていたのです。

私は家の商売を継ぐ自信がなくて、知人の紹介で地元の底引き組合の製氷会社に就職し、変動的な勤務体制で生産者や仲買人に氷を販売する仕事に就きました。何にもわからずに飛び込んだような仕事、組合員との対応、氷の扱い方から、はい作業と、噛んで含めるように何人かの先輩から教わったことを感謝しています。

製氷会社は浜田漁港協同組合に統合し製氷工場も新設されるようになり、そんな時、職員の中から何気なく先輩や後輩の方が冷凍機械の勉強がしたいという話が出てきてびっくりしました。再び我が家で勉強するという事が出来るうれしさというか責任をも感じた頃でした。2・3年ぐらひは勉強したと思います。皆さんが頑張ってこられたことで第二種冷凍機械保安責任者の資格を取得されました。

イワシ豊漁で昭和52年に需給調整用大規模冷蔵庫が完成して、此の冷蔵庫を担当させて頂き、新型の冷凍機に携わったこと今でもありがたいと思っています。そして昭和57年春、第二冷蔵庫も完成して一層重責を感じました。平成2年には浜田市漁業協同組合として最高の水揚げ量19万8000トン、水揚げ金額116億円を達成した頃、すでに第一製氷工場は新設されていましたが、第二製氷工場もこの年に稼働し、平成6年には第三製氷工場も動き始めました。私に冷蔵庫そして製氷工場と任せていただくことが出来たことは、私の周りには相当の苦勞を共にした仲間がいたからこそと思っています。

平成18年3月に36年間お世話になった、はまだ漁業協同組合を退職いたしました。退職してからも色々な人からも誘いが有、ある日先輩方からくにびき学園に入学してみないかと言われ面白いと思って入学することにし、その間の2年間で本当に良き仲間もでき、今まで興味もなかった色々な勉強もさせていただき卒業後もいろいろなところでボランティアにも参加させていただき人生が開けてきた気分です。好きな尺八吹き、そして詩吟を吟じて体力を付けるためラージボール（卓球）を日々楽しんでいます。

皆さんから教えられ、協力して頂き本当に感謝しています。これから何かの役に立つことがあれば進んで外に出て頑張りたいと思います。

回想：浜水15期（生）の記憶一その1

F15期 中村洋一

浜田水高15期は、昭和37年4月の入学である。当時は漁業科・機関科・水産製造科と言う科名で各1クラス。定員は、漁業科（F）＝30名、機関科（E）＝30名、水産製造科（P）＝50名であったと思う。

当時の入学試験は9教科で美術実技と体育実技があり、視力。色覚検査まであったので、今から思えば大変なことであった・・・。

入学早々の部活動勧誘の先輩との出会いは、今でも忘れ難い記憶である。各部活動のキャプテンは、当時の3年生（13期生）。クラスに入ってきて、新入生一人一人の体を叩きながら、“よーし、おまえは柔道部!”とか“よーし、おまえは相撲部!”と言っては勝手に入部を決められる凄さ・・・に驚愕したものだ。幸い、自分は個人的な理由で既に体操部への入部を決めていたので、先輩からの凄く勧誘はなかった。当時は、体育館一面に柔道部、卓球部、剣道部、体操部が混在の形で部活動をすると言った感じであった。水族館が見える海岸端に弓道部があり、小川勇夫先生、川本俊夫先生、三好福市先生などが生徒に交じって弓を引いて居られた。本館玄関先の相撲土俵ののところでは、かの有名な大笠＝笠井利憲先生の姿が在ったように思う・・・。

また、毎日のように昼休みに2年生の教室に呼ばれたものだ。登校時の挨拶の仕方が悪いだの、小遣い銭を貸せだのといっっては、締められたものだ。時には跳び蹴りを喰らわせる2年生も居たりして、今なら社会的に大問題になるような状況であったが、何とか毎日耐えて学校生活を続けることができた。運動会は、現在、艇庫から山際に向かっての狭い運動場(?)のような広場で行った。土俵を担いで走ったり、逆立ちで歩く競技など種目が工夫されていた。ダンスがあったりして、今流の表現なら“ワイルドだろ〜!”といった感じの学校行事であった。

育ち盛りの年齢であり、授業中の空腹を満たすため、校庭の端に干してある魚を失敬して（＝魚はアジだったか?）、ガリガリ嚙ったものだ。2年生、3年生になると短い授業間休憩の間に、だるまストーブの上でスルメを焼いて食べたり、たばこを吸う者も居たりして教室の中は色々な臭いが充満するような時もあった。が、至極自然に授業は展開されていたことを思い出す・・・。当時の校長は、長谷川勝蔵先生、教頭は、木村利宣先生だったと思うが・・・。入学間もない頃、体育館で全校集会があった、チョビ髭の小柄な先生が、“おい!戸（体育館の入り口の）を締めろ!”と威張った感じで同僚の先生に命じておられたので、自分たちはその先生が校長先生なのだと思ったのであるが、実際は色白のやや背の高い長谷川勝蔵先生が校長であったことを知ったのはこの出来事の少し後のことだった・・・。

名物教師の代表、浜崎康一郎先生のことについては当時の生徒の記憶には、はっきり残っていると思う。同窓会誌“翠香”投稿の機会があるなら、またペンを執ることとしたい。浜水15期生は、昭和40年3月卒業なのでこの春は、卒業後48年が経ったことになる。

自分たちの年齢も、今年は67歳になる勘定・・・。今年も元気で一年を過ごし、次回再び“翠香”投稿の機会まで自分の記憶を整理して良い思い出を作文できるように備えたい。15期生みなさん、是非この思い出を読んで当時を回想してくださるなら嬉しいです。では、また・・・。

水産高校生の就職全盛時代

中村建市（漁業科 昭和44年卒）

昭和44年に漁業科（F19期）を卒業し、昭和46年に専攻科（F9期）を修了した。この時代、日本の水産界・海運界は大変な活況を呈した時代であり、就職活動に苦労することは何もなくあった。3年を終え本を卒業した者達の殆どが水産界にあっては、日本水産、大洋漁業、など大手水産会社へ、海運業にあっては日本郵船、商船三井船舶、川崎汽船などの大手海運会社へ甲板員として就職して行った。また専攻科修了者も同様に航海士として外航船会社就職できた時代である。

現在の就職状況から考えると想像もつかないことであるが、その当時はどんな時代的背景があったのかを改めて回顧してみるとして、押し入れの奥に仕舞い込んでいた所属船会社の社内報などを取り出してみた。

会社の歩みをまとめた小冊子の中に、海運界変遷の項目があり、当時の海運界の動きがまとめてあった。要約すると、①「集約体制下の日本海運（昭和40～44年）」、昭和39年の海運企業の集約体制の発足とともに、大規模な外航船腹の拡充計画が進められ日本の外航海運活動は飛躍的に増大し、ロイドの統計によると昭和36年に795万総トンであった日本の船腹量は、昭和44年には2,400万総トンと約3倍の増加を示し、世界船腹の1割以上を占めて世界第2位となった。②「高度成長と日本海運（昭和45～48年）」、この時期の日本商船船腹は、1,000万総トン増加して3,500万総トンとなり、世界船腹の12.8%を占めるに至ったと記している。

この時の船員人事配乗担当課長の回顧録によると、海運各社は荷主の要請に基づき、鉾石船、石炭船、木材船、チップ船などの専用船を競って建造した。当然乗組員は不足状態となり、最大手海運会社の或幹部は「船員を確保した会社は、これからの海運界を牛耳ることができる」とまで言い切る程であった。商船大学、商船学校、海員学校などの関係学校には所謂「青田刈り」のための船員人事担当者の訪校が絶えなかった。水産高校もその対象外ではあり得ず、水産高校の生徒達も次第に外航商船への乗船を希望するものが増え水産業界から学校宛に苦情が出ていることも聞いた。正に売り市場で就職先は、生徒の選び放題であり、多額の現金を持ち歩いて彼らを口説く会社もあって、各方面から蟬壁をかっただものであると記している。

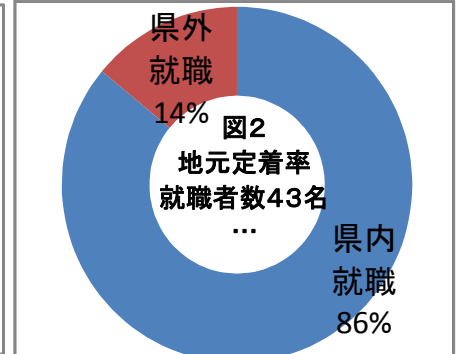
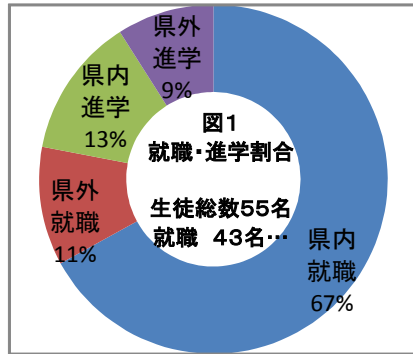
正に、この時代の真っ只中の昭和46年に、専攻科を修了し外航船会社に就職したのであるが、在学中の12月に面接のため、会社が手配してくれた鉄道切符を片手に東京丸の内の会社へ赴くと、暖かい出迎えを受け、時の海務部長から「船員は、我が社の宝である」と言われ、感激したことを今でも鮮明に覚えている。

昨今の水産・海運界の就職状況を思うと、時代が良かったの一言であるが、その良き時代に送り出して頂いた浜田水産高校及びご指導を頂いた恩師に感謝の気持ちで一杯である。

卒業生と進路状況（人数）

学科	コース	卒業生数	就 職		進 学	
			県内	県外	県内	県外
海洋技術	海 洋 機 関	10	6	0	3	1
		8	3	1	4	0
食品流通		37	33	5	0	4
専 攻 科	漁業 機関	3	1	2	0	0
		3	1	2	0	0
合 計		61	44	10	7	5

図1は、就職と進学比率で概ね7割が就職、3割が進学となりました。この比率は例年の傾向とほぼ同じです。



地域別就職状況

地 域	人数
浜田・江津	35
大田	1
松江・出雲	1
米子・境港	2
広島	3
関西	1

地域別進学者数

地 域	人数
浜田	7
広島	4
大阪	1

図3は進学先です。専攻科に7名が進学、4年生大学（海洋生物系）1名、短大（保育）1名、専門学校に2名が進学します。

図2は、地元企業で就業する割合です。

本科就職者のうち86%が担い手として地元に残ります。地元企業のご協力もあり島根県西部の高校では特筆すべき高い割合になりました。

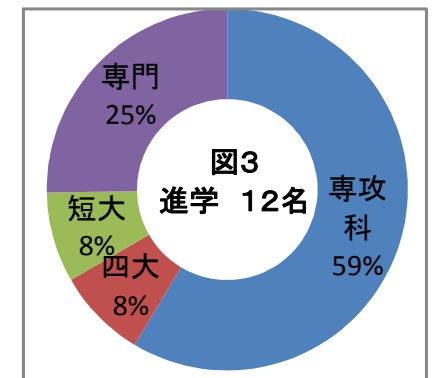


図4は海洋技術科の就職先です。今年は、地元漁業へ6名が進み、公務（島根県船舶職員）に2名、漁業取締船1名が就職します。本科生9名が海上関連に進むということで地元漁業の担い手としての活躍が期待されています。

就職先
県内 吉勝漁業、裕丸生産組合、真和漁業、興進丸、島根県調査船・取締船、オートバックス
県外 漁業取締船（水産庁委託）

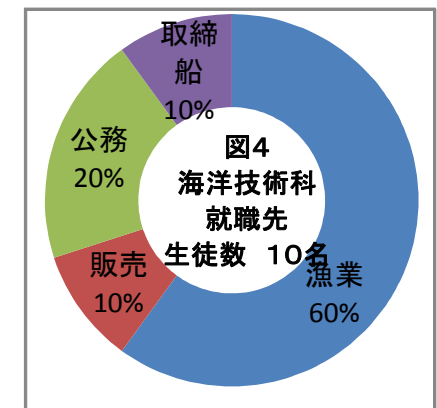


図5は 食品流通科就職先です。食品関連に7名、自動車部品などの製造業に14名、介護関連に6名などです。

県内 石見食品、大磯、マルハマ食品、若女食品、デルタ・シー・アンド・エス、シンカー、浜田工業、日本製紙ケミカル、ニッタ、水澄み会、弥栄福祉会、せせらぎの郷
県外 三和ドック、IHI マリンユナイテッド呉 渋谷塗装

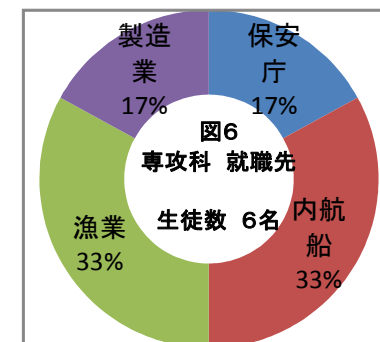
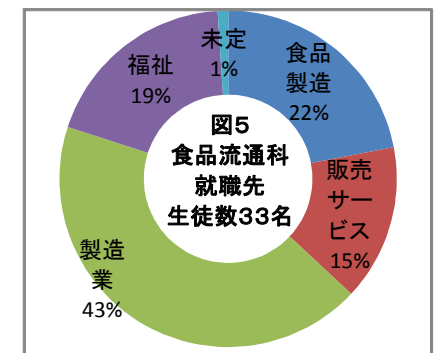


図6は専攻科の就職先です。海上保安庁に1名、内航船（ROR O船）に2名、大洋エーアンドエフ旋網漁船や地元の吉勝漁業に2名が就職します。

在校生の資格取得者数（延数） 平成25年3月末

資格・検定名	数	資格・検定名	数
三級海技士（航海）	3	潜水土	5
三級海技士（機関）	7	水産・海洋技術検定	-
四級海技士（航海）	6	食品技能検定（1類）	67
四級海技士（機関）	7	食品技能検定（2類）	30
一級小型船舶操縦士	29	食品技能検定（3類）	12
危険物取扱者（乙種一類）	6	HACCP 基本技能検定	24
危険物取扱者（乙種二類）	5	食物調理技術検定	37
危険物取扱者（乙種三類）	6	ワープロ技能検定（1・準1級）	1
危険物取扱者（乙種四類）	26	ワープロ技能検定（2・準2級）	22
危険物取扱者（乙種五類）	4	ワープロ技能検定（3・4級）	123
危険物取扱者（乙種六類）	4	簿記検定（日商4級）	23
危険物取扱者（丙種）	101	実用英語技能検定（3級）	3
ガス溶接技能講習	17	漢字検定（準2級）	-
アーク溶接等業務特別講習証	19	漢字検定（3級）	-
2級級ボイラ技士	4	日本語検定（3級）	-
ボイラ実技講習修了者	-	日本語検定（準3級）	2
第3種冷凍機械	5	日本語検定（4級）	9
第1級海上特殊無線技士	17	日本語検定（準4級）	13